

2013年10月  
AGCコーテック株式会社  
CSR本部  
TEL:03-5217-5104

**コンプライアンス・企業倫理**は、CSRの実践にとって最も重要な基盤となります。

### ◆ コンプライアンス

「**コンプライアンス**」(compliance)は、一般的には「服従、応諾、承諾、追従」、「関係者の願い・要請などに対応する」などの意味があります。一方、実業界では、「**法令順守**」、「**法規範・社内規程、社会規程の順守**」という意味に使われています。

コンプライアンスは、狭義には、「**法令順守**」を意味しますが、ビジネスの世界では「**法令順守や社会諸規則・業務マニュアル等の順守に加えて、社会規程の順守**」を含めて広い意味で使われることが多くなっています。

### ◆ 企業倫理

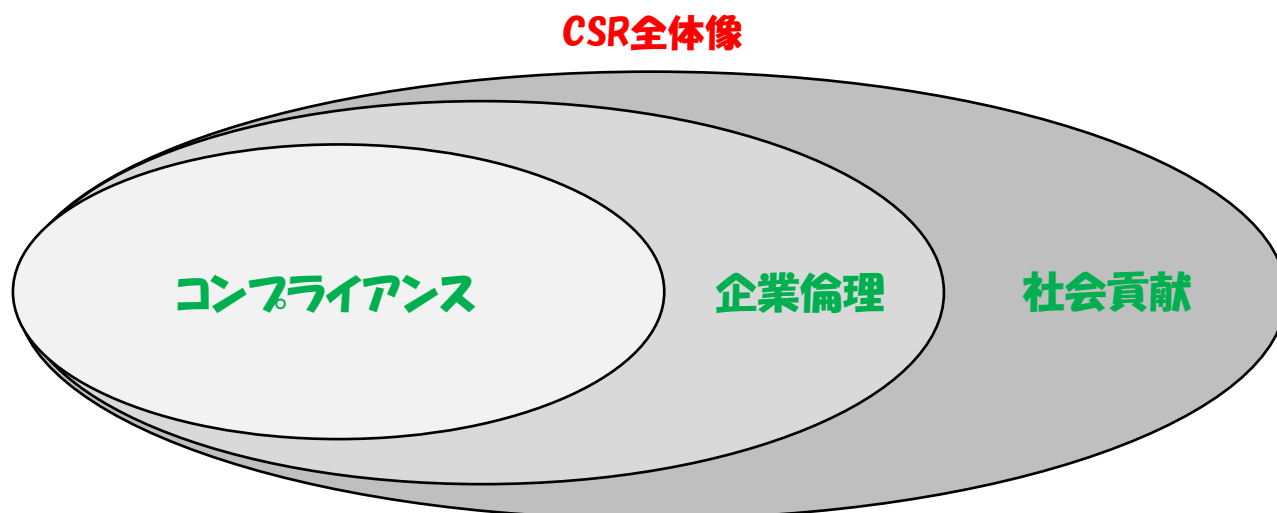
企業倫理とは、企業活動に際して、**経営理念に基づく行動基準を順守すること**、と考えることができます。また、「**ビジネスにおける誠実性である**。」と言われることもあります。

(したがって、広義のコンプライアンスは、企業倫理とほぼ同義語と解釈することもあります。)

企業の行動は**ステークホルダーに大きな影響を与え**、あるいは**社会や環境に深刻な被害を与えるもの**であり、企業の行動は常に**高い倫理性**をもって行われなければならないと考えられています。

### ◆ CSR全体像

法的責任の視点である**コンプライアンス**が**フラットホーム**になり、そのうえで**経済的責任や倫理的責任まで包含した企業倫理**があり、さらに、**社会貢献的責任**まで含めた概念全体が、CSRの全体像としてとらえられるべきであると考えられています。



※ 厳密に区分されるものではなく、重複する部分も多い。

## ◆ コンプライアンス・企業倫理の実践

コンプライアンス・企業倫理の実践、すなわちコンプライアンス経営のために重要となるものは次の6点であると考えられています。

### ① 経営トップのリーダーシップとコミットメント

経営トップは、率先してリーダーシップを発揮し、社内外にコミットメントやメッセージを明示することが不可欠となります。

### ② 行動基準の策定と周知徹底

一般的に「行動基準」は、「経営者・社員及び企業・組織にとって倫理・法令等に基づく行動の基準又はガイドライン」と定義することができます。

### ③ 順守体制、フォローアップ体制の整備

担当部署の設置、教育・研修の実施、ヘルプラインの構築等と運用が不可欠となります。

### ④ 教育・研修プログラムの作成と実施

自社の経営理念、企業使命、基本的価値観などを十分理解し共有することが重要となります。

### ⑤ ヘルプラインの整備と機能の充実

役員・社員が業務運営上、コンプライアンスなどについて、「疑問がある」、「判断に迷っている」などの場合に何でも相談できる「職場環境」、「企業文化」を作ることが必要であるとされています。

### ⑥ 監査・モニタリングや「アンケート調査」の実施

行動基準・行動指針や社内諸規定に照らして、社内の順守・運用状況を定期的にチェックすることや、「アンケート調査」を実施して改善に役立てることが必要であるとされています。

<参考文献:「CSRの基礎知識」日本規格協会>

以上